

地域と歩む漁協婦人部活動

魚津漁協婦人部
大黒富子

1. 地域の概況

蟹気楼の見える街、魚の街、魚津は県東部の新川地方の拠点都市として位置し、将来、魚津港周辺の整備が図られることに大きな期待が求められている。

また、魚津市内の経田、道下、魚津の3漁協が1996年1月1日新設合併し、新しく魚津漁業協同組合、愛称も「しんきろう漁協」として全国からの一般公募でシンボルマークも制定され、時代の波に遅れじと出航した。

2. 漁業の概要

沖合漁業（いか、ばい、かに等）と沿岸漁業が営まれ、主として定置が盛んである。

3. 研究グループの組織と運営

婦人部は県内で一早く結成され、1992年5月には第30回の魚津漁協婦人部記念総会が盛大に開かれた。現在部員数209名、内女性正組合員が39名と約一割を占める。年会費600円、部長、副部長、会計、監事を含む31名の役員構成で、年間事業計画のもと部員の自主的な参加をめざし、創意工夫により活動を行っている。

4. 研究・実践活動課題選定の動機

(1)漁協の活性化は婦人部の力も必要。

(2)沖合漁業の奥さん達からは「魚価が安く資材や燃油の高騰で生活にゆとりがない。少しでも暮らしやすくしたい」との声。

(3)定置漁業の奥さん達からは「大漁だと魚価が安くなる。加工等で付加価値を高め、少しでも安く消費者に提供出来ないか」との声。

(4)とれたての魚の味を知ってもらう。

(5)消費者が丸ごと買えば地元の魚が求められるようになる。

以上のような動機で組合員の生活が良くなれば漁協も良くなる。ハード面では出来なくても、ソフト面で漁協の経営に協力出来るのではと申し合わせ、活動の再出発となった。

5. 研究・実践活動状況及び効果

(1)婦人部役員が貯蓄推進員になり貯蓄に協力する。

(2)婦人部旅行

毎月積立てて一年に一度研修を兼ねて親睦を図る。積立の満期以前に実施する時は組合より一時借りる。

(3)漁協婦人部まつり

値のつかない魚、自宅用の魚に付加価値をつけて消費者に安く提供する。値段は自分でつけ、売上の一割を活動費に寄附する。場所は組合の荷捌き所。同時に魚の裁き方教室も開催する。リサイクルショップの出店依頼、売上金は一部婦人部に寄附して頂く。これに必要な水道代、光熱費等は漁協の協力を得ている。また、テーブルや大漁旗等、私共の出来ないところは漁協や漁協青年部に手伝ってもらう。漁協、漁協婦人部、漁協青年部の連携プレーがあるから出来る。部員も自分で塩加減した干物や、昆布巻にした刺身、油で揚げればすぐにおいしく食べられるフライ、日頃家庭では食べられないゲンゲの味噌汁等いろいろ工夫して楽しい店にしている。農協婦人部の方や、干物の加工屋さんも店を出させてほしいと今ではにぎやかである。

消費者交流として、農協婦人部、農協青年部、婦人農業士、商工婦人部の方々との楽しい体験がある。大根やじゃがいもを植えたり、稲刈り等も体験し、果樹栽培の若労活を聞き、昼食を共にしながら一次産業に共通する話題が提供され、生産者と消費者の関係の見直しの良い機会となっている。お互いに協同組合関係者も出席するので悩みも分りとても良い交流である。

特に昨年1995年2月の交流では、漁協青年部と一緒に農協青年部、農協婦人部、農村グループの方々に早朝5時市場に集合して頂き、イカ釣船の見学、魚市場の見学、組合長、参事、販売職員より魚の流通の仕組み、季節による魚の種類、富山湾の魚、地の魚はなぜ良いか等いろいろ質疑応答され、とれたてのブリの刺身、ブリ大根等賞味してもらった。予定時間をオーバーし和やかな中にも生活のにじみ出たよい交流であった。

全国スポーツ少年団野球大会が魚津桃山運動公園野球場で開催された時、市教育委員会から何かおいしい「魚津」という鍋物をとの依頼があり、部員と組合と相談し、タラ汁に決定。漁協青年部及び、漁協職員に鍋を運んでもらい3日間実施した。暑い夏の日、氷水うまい水を飲みながらのボランティアである。大会の参加者は、私達の進めでタラの頭や肝もおいしいと食べて頂いた。後日教育委員会より魚津のアピールになってとても良かったと好評を頂いた。

1994年、ホタルイカの旋尾線虫による影響でホタルイカの消費量が極端に減少、魚価も下がりホタルイカ定置に大きなダメージを与えた。これではいけないと漁協婦人部で話し合った。毎年4月に魚津ではしんきろうマラソンロードレースがある。時期的にちょうどホタルイカの最盛期だ。全国から集まって来る選手やその家族、魚津市民はもちろん県内からも多勢の消費者が集まり、ホタルイカの味、旨さを最確認していただく良い機会である。

ホタルイカは、きれいに茹で上げるよう一回、一回お湯を替え、熱い湯気の上上がった桜色の指でさわるとはじけそうなのを、色々工夫したたれで約1000名の方に食べて頂いた。当日はひどい暴風雨の悪天候。雨で濡れた身体を鍋のまわりでしばしの暖をとり、「どうもありがとう」「美味しいよ」「こんなサービス初めてだよ」「来年も来るから又食べさせてね」と老いも若きも、男も女も皆一様に笑顔を見せて下さった。市内の消費者も「こんなに美味しかったけ」言って下さり、応対にも忙しいひとときだった。

市長さんも顔を出され、「場所悪かったね、来年もっと良い場所でしょうね」と声をかけて下さりとても元気づけになった。

この活動でも、鍋、ガス器具、テント張り、机等と大きいものは漁協や漁協青年部の手助けが必要だ。今回は市の農業水産課の方にも協力していただいた。私達も何事もやれば出来ると自信のつく良い機会となった。

反省会では、魚津市教育委員会、魚津市体育協会、魚津市役所の幹部の皆さんも多数ご出席になり、問題点や要望があれば、どしどし出して欲しいと言われ大鍋とか、ホタルイカの絵入りののぼり旗、お揃いの帽子等準備してイメージアップに努めることを申し合わせた。

6. 波及効果

漁協、漁協婦人部の発案、市からの依頼と各行事に合わせて会場での大漁鍋等を行って、とても市、漁協の活性化に大きな力となった。市企画広報室でも活動に注目して下さり、新しい魚津港周辺の整備時にテクノホール内にいろいろと活動出来るよう配慮して下さるとのこと。消費者も漁協の荷捌所に気安く足を運んでくれるような、また、観光客を呼ぶ為にも朝市を開けばとの声で、魚津の朝市、海鮮組の協力で婦人部も発起人となり魚津朝市実行委員会を作り、平成7年9月より毎月第2日曜日漁協の荷捌所で開かれている。

婦人部まつりで要領のわかっている部員達は手作りのおふくろの味を出店し、生活のゆとりと楽しさを味わっている。交流で顔見知りの農商工の人達も一同に集まったの魚津の朝市、キトキトの味を午前8時から12時まで一生懸命活動している。市側でも約束どおり、大漁鍋2基、はっぴ50枚、のぼり旗等いろいろと用意して頂いた。

朝市でもお魚裁き方教室で好評になり、一匹丸ごと買う人も多くなり、包丁を求めていかれる人も多勢出てきてとても嬉しく思う。最近では、朝市も定着して、私達の作る朝市定食も200食近くも出るほどだ。これを機会に私達も活動しやすいように自助努力もし関係団体による指導・協力も一段と強くお願いしていただきたいと思う。

7. 今後の課題

- (1)漁協合併による魚津・経田漁協婦人部の再編成について。
- (2)今後の朝市の運営企画づくり。(まんねり化・自助努力)
- (3)漁協婦人部で出来る地域の高齢者のいこいの場づくり。
- (4)産地魚価安等による厳しい漁業環境を踏まえた学習活動の強化。
(漁家経営・担い手育成・漁家生活改善)
- (5)海難防止への取り組み。
(救命胴衣着装の呼び掛け)